

## 日野の歴史と民俗 161 (詳細版)

# 南平の水と緑の変遷

街の緑と水は豊かに生きる人々の原点と考えます。街の過去、現在の変遷を振り返りつつその意義を深めたいと考えます。

かつて南平は農村地帯であり、家の軒数 84 戸・人口 497 人（明治 9 年（1876）・『七生村史』より）でありました。浅川堤から多摩丘陵の麓まで家屋はなく、一面の水田風景でありました。

水田の稲作は水が源です。平山地区の上流の浅川から引き入れた水は平山用水路を経て南平用水路に入り水田を潤していました。南平用水路は中堀、車堀、川原堀、根田堀などという幾つかの堀名に分かれて流れ、苗代作りの春から収穫の秋までは水田の豊かな水辺の里でありました。ホタルやカエル、ドジョウ、フナなどの生物は自然の流れのなかで多数棲息していました。この川辺は子供たちの遊び場にもなりました。その用水路は村人総出で「堀さらい」を、村道路は「道普請」という毎年恒例の行事で隣近所が力を合わせ保守、管理に務めていました。村人同志の深い絆が感じられる行事でもありました。

用水路には更に丘陵からも四季を通して湧き水が流れ込んでいました。かつては山の谷間から流れ出る八つの谷戸川がありました。今は都市化が進み舗装道路などになり消滅していますが、今も四つ程の貴重な湧水路が残っています。かつての俗名で真根郷水道、背戸の谷戸川、沖の谷戸川、恵比寿谷戸川など湧水の貴重な痕跡を留めた堀があります。かつてはこの清流には沢ガニ、シジミ、サンショウウオなどが棲息していました。

しかし今は田畑は激減しています。南平地区の変遷は次の記録があります。

昭和 15 年 (1940)	水田	37.98ha	畑	40.3ha	森林	105ha	(七生村史より)
平成 19 年 (2007)	水田	0.57ha	畑	5.8ha	森林	29.5ha	

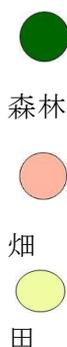
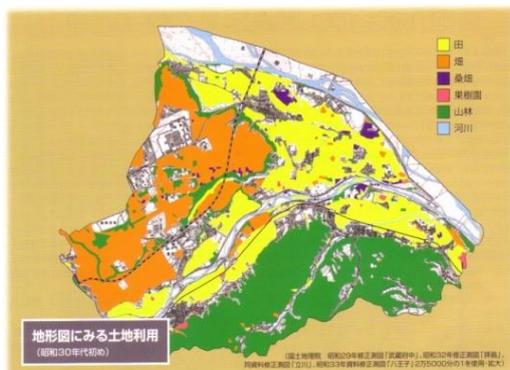
(東京都土地利用現況調査より)

などとなっております。田畑が減少したことにより貴重な自然環境の保全の源として水、緑は大きく変遷しております。下図はその変遷の比較図です。

### 日野市の森林、田、畑の移り変わり

[昭和 30 年代]

[平成 19 年]



(『新聞記事で見る日野市の歩み 50 年』リーフレット 平成 22 年 日野市郷土資料館発行より)

また南平地域の風景の移り変わりを例示します。

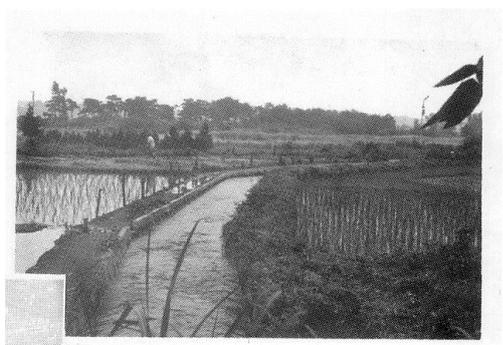
[昭和 30 年代]



[平成 19 年代]



京王線南平駅南側の多摩丘陵方向の風景



京王線南平駅北側の北方の風景

このように自然環境の緑と水は大きく変遷をしております。

現代の経済発展、科学技術の進展の優先のなかで、ともすると見落としがちな自然環境の保全は重視しなければなりません。日野市では平成 25 年（2013）の市制 50 周年の節目に「50 年ビジョン日野曼荼羅」を作成し、「水都日野」を目指すとなりました。南平地区においては「南平・水と緑のネットワーク」の地域活動を進めております。南平の過去の自然環境をふりかえり豊かな水と緑の保全につとめ、その過程で近隣との触れあい、絆をも深め豊かな街を目指しております。日野市緑と清流課、日野塾、法政大学エコ地域デザイン研究所、都市緑化機構、第一生命、セブンイレブン記念財団の方々からご支援をいただき活動の大きな力になっております。これからもこの活動の進展に努めることが大切です。

水と緑の地域の変遷はこれを振り返りつつ 21 世紀の街の在り方を考える大事な視点として地域の活動を進めることが大切です。

（日野市古文書等歴史資料整理編集委員 清水守男）

◎これは「広報ひの」平成 26 年 4 月 15 日号に掲載された記事の詳細版です。

資料館にて印刷したものも配布しています。

（問）日野市郷土資料館（Tel042-592-0981）